

スポーツキャンプの受入れ

宮城県白石市・柴田町 — ベラルーシ新体操チーム —

- 宮城県白石市と柴田町が地元の仙台大学と連携し、ベラルーシ新体操ナショナルチームの事前キャンプを約1週間にわたって受入れ（平成29年10月）。
- スタッフ・選手計14名が来日し、幼稚園や小中学校での交流会、お寺での写仏体験など地元住民との教育・文化交流が図られた。
- 両自治体において、地元の新体操チーム等と合同の公開演技会を開催。昼食には仙台大学運動栄養学科の学生が東北のご当地メニューをもとに開発した東北6県弁当も提供された。

東北6県弁当



公開演技会

小学校での交流会



幼稚園での交流会



本件の問い合わせ先

白石市東京オリンピック・パラリンピック推進室 0224-22-1324
柴田町まちづくり政策課 0224-54-2111

相手国との文化交流

茨城県笠間市 — エチオピア文化交流団と市民の交流 —

本年5月8日、市長一行がエチオピアを訪問。在エチオピア日本大使館の協力を得て、ホストタウン交流についてエチオピア政府、NOC、競技団体と交渉を行い協力を取り付けた。その際、エチオピア文化ルネッサンス委員会より、笠間市において、エチオピア舞踊及びコーヒーセレモニーの披露の申し出を受け、快諾。6月5日に一行が来日し、「エチオピアフェスティバルinかさま」を実現。当日は市民約300名が参加し、エチオピアの文化に親しんだ。

1 概要

- ・エチオピアダンサーによる民族舞踊、コーヒーセレモニー、エチオピア料理の試食
- ・笠間市の伝統芸能の披露、笠間のいなり寿司など日本食の提供
- ・エチオピアコーヒー、民芸品の販売

2 笠間市の負担

東京から笠間市への移動費用(市バス高速代)、フェスティバルに要する経費(備品等使用料、謝礼、食材等)、笠間市観光に要する経費(バス借上料、昼食代など)で、総額約55万円。※宿泊費用(25名分)は、駐日エチオピア大使館で負担。

本件の問い合わせ先
笠間市教育委員会スポーツ振興課
0296-77-1101



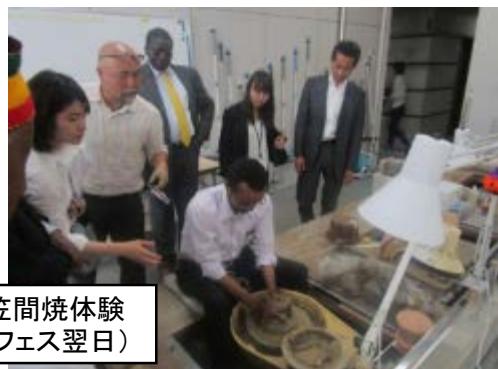
コーヒーセレモニー



エチオピア舞踊



伝統舞踊披露



笠間焼体験
(フェス翌日)



齐田大使・ハイレ陸連会長・
前駐日大使と面会(5/8)



ハイレ陸連会長
への説明(5/8)

相手国との開発支援における交流

鳥取県 — JICAボランティア隊員の派遣とCLAIRの自治体研修員の受入れ —

2015北京大会でのジャマイカ陸上事前キャンプ等の縁をきっかけに、陸上交流や青少年交流等を意図して姉妹都市を締結したジャマイカ・ウェストモアランド県へ、JICAの自治体連携ボランティア制度を活用し、県職員を同県へ派遣。同様に、ウェストモアランド県からも、自治体国際化協会(CLAIR)の自治体職員協力交流事業(LGOTP)を活用して研修員を受入れ。

これらの事業により、人的交流を通じて、友好都市への貢献はもとより、現地情報やニーズの入手(陸上(スポーツ)事情、文化、食、人材等)、日本の情報の拡散を図るとともに、県職員の視野の拡大・人的ネットワークの構築により、陸上交流、青少年交流を中心とした将来的な鳥取県への貢献が期待される。

1 職員派遣の概要(平成29年1月～31年1月(2年間))

- ・鳥取県とウェストモアランド県との交流事業の連絡・調整など
- ・ウェストモアランド県の行政事務の効率化(事務処理の電子化や鳥取県版カイゼンの導入など)
- ・上記に加え、日本語やグラウンド・ゴルフの普及活動を実施。

※JICA自治体連携ボランティアとは

JICAが特定の自治体と連携し、自治体の特性やリソースの活用により開発効果が期待できる場合には、合意書を締結の上、特定の地域へ自治体職員を派遣する制度。自治体職員の人事費の8割はJICAが負担。(派遣に係る経費はJICAが負担)

2 研修員受入れの概要(平成28年5月～29年5月(1年間))

- ・職種: ウエストモアランド県計画部門・物的計画コーディネーター
- ・研修内容: 都市計画、環境政策、まちづくり等

※自治体職員協力交流事業(LGOTP)とは

海外の地方自治体等の職員を研修員として受入れ、技術の習得を図るとともに、受入れ自治体の国際化施策等への協力を通じて地域の国際化を推進する。(受入に係る経費は交付税で措置)

本件の問い合わせ先

- ・鳥取県地域振興部スポーツ課 0857-26-7911
- ・鳥取県観光交流局交流推進課 0857-26-7595



ファイリング指導(ウェストモアランド県庁)



グラウンドゴルフ指導(ウ県知事と)

相手国との開発支援に伴う交流

長野県松川町 — JICA草の根技術協力事業研修生の受入れと市民との交流 —

郷土芸能披露



○長野県松川町ではJICAが実施する草の根技術協力事業に協力する形で、多くの国々から研修生を受入。ホストタウンの相手国であるコスタリカからも数度にわたり研修生を受入るとともに、指導員として、職員等を派遣。

○受入に併せて、太鼓演技など郷土芸能の披露や、互いの食文化の紹介などアットホームな雰囲気で市民との交流を実施。

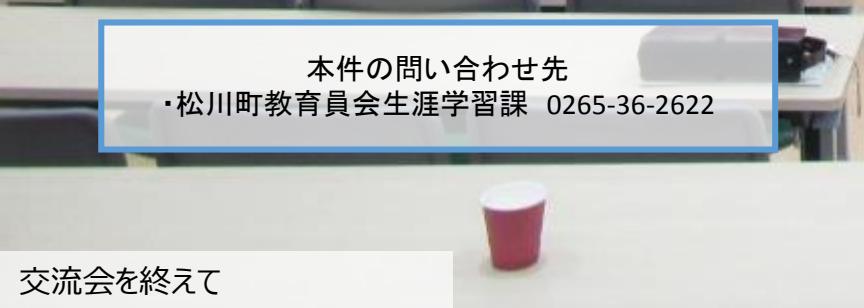
※事業費は協力団体等への謝金 総額約8万円

○今後も町民のコスタリカ派遣事業を計画するなど、草の根の交流を足掛かりに、コスタリカとの交流を促進し、将来的なグローカル人材の育成を図ることとしている。



研修風景

本件の問い合わせ先
・松川町教育委員会生涯学習課 0265-36-2622



コスタリカの味を実食



交流会を終えて

相手国との教育交流 ①

長野県佐久市 — エストニア・サク市との子供たちの相互交流 —

エストニア共和国サク市とは、「サク」という同じ名前の市であることから交流を開始し、平成28年1月15日には子ども交流に関する協力覚書に調印し、相互に子供を派遣することで合意。異なる国や社会で生きる人の生き方、考え方を理解し、互いに認め合い、尊重していく力を育むとともに、外国の文化、伝統等に関心を持ち、それらを理解しようとする青少年の育成が目標。また、子供たちの新しいことに挑戦する心を養う。

1 サク市→佐久市訪問

平成28年10月に8日間、サク市の中学生7名を佐久市に受入れ、ホームステイ、中学校体験入学、文化施設等の見学、買い物体験などを実施。※佐久市の費用負担は、引率者の宿泊代、食糧費、消耗品など、約41万円(決算ベース)

2 佐久市→サク市訪問

平成29年7月29日～8月5日、8名の中学生がサク市を訪問し、中学校での体験授業や文化交流などを実施。

【出発前の子供たちの声】

- ・エストニアで友達を作り、長く交流したい。また、エストニア文化など体験したことを周りの人たちに伝えたい。
- ・エストニアの訪問で現地の人たちとコミュニケーションを取りたい。また、異国の文化や暮らしを体験したい。
- ・失敗するのが嫌で消極的なので、この研修で新しいことに挑戦し、自分を変えたい。

※事業費は、参加者8名、引率2名で総額約500万円(うち、研修生自己負担は14万4千円(3割相当))

本件の問い合わせ先
佐久市教育委員会
社会教育部 体育課
0267-62-2020

サク市→
佐久市



中学校体験入学



小学生との交流



書道体験

佐久市→
サク市



授業体験



歓迎会



文化交流

相手国との教育交流 ②

新潟県妙高市 — スロヴェニア・スロヴェニグラディツツ市との子供たちの相互交流 —

スロヴェニ・グラディツツ高校と妙高市在住の高校生が毎年相互に訪問と受入を行う交流。平成13年に姉妹都市調印後、平成14年から17年までは新潟県立新井高等学校とスロヴェニ・グラディツツ高校間で交流事業を実施(平成20年から妙高市在住の高校生とスロヴェニ・グラディツツ高校間)。受入・派遣に際しては、特定のテーマを設定し、理解を深めるなど工夫し、青少年の異文化理解と国際社会で通用する青少年の育成を図るとともに、両市の友好交流を推進。

1 スロヴェニ・グラディツツ高校受入(平成27年9月16日～23日)

○テーマ:歴史・生活文化

○活動内容:ホームステイ、高校訪問、市内外見学、共同学習、市民交流会等

2 妙高市高校生派遣(平成28年10月10日～18日)

○テーマ:健康

○活動内容:ホームステイ、高校訪問、市内外見学、共同学習等

3. 費用負担

○派遣…1人あたりの渡航費用の3分の1を妙高市が補助

※パスポート発行手数料、任意海外損害保険料、弁当代等は含まない

○受入…ホームステイ中の食事代などの補助として受入生徒1人につき30,000円を補助

本件の問い合わせ先
妙高市教育委員会
生涯学習課
0255-72-5111

グラディツツ市

→

妙高市



高校訪問



ホストファミリーと行動



勾玉作り体験

妙高市

→

グラディツツ市



高校訪問



ハーブの授業



「健康」温泉地で水中運動

相手国との教育交流 ③

徳島県 — ドイツU18ナショナルチームの合宿受入れ —

ドイツ・ニーダーザクセン州との交流を契機に、ドイツを相手国としたホストタウンに登録。このような中で、ドイツのU18柔道選手の強化合宿を受入れ。

【特色】

- ・練習相手には、徳島県内の小中学生だけでなく、近隣県（遠くは愛知県）からも受入れ。募集には県柔道連盟が活躍。
- ・柔道だけではなく、徳島県の文化施設の見学、GAP農家が生産した梨狩り体験、買い物体験などを豊富なメニューを提供。
- ・練習では、警視庁から講師を招き技術の講習会を開催。ドイツでは学ぶことのできなかった技を取得したとの声。
- ・ドイツの参加者からは、「日本食は種類が豊富でどれもおいしい」や「ドイツでの半年分の練習量を10日間で達成した」などの評価があった。

本件の問い合わせ先
徳島県県民環境部県民
スポーツ課 088-621-2986



相手国への食文化発信①

山形県村山市 一事前キャンプを活用した食文化の発信一

- 山形県村山市は、平成29年6月にブルガリア新体操ナショナルチームの事前キャンプを約2週間にわたって受入。
- スタッフ・選手26名が日本の気候、食、文化などに慣れ親しみ、最高の状態で東京大会にのぞみたいという趣旨で村山市を訪問。練習の合間に日本文化の体験(浴衣着付け、茶道、華道等)、日本食の体験、旬のさくらんぼ狩りなどを実施。
- 地元小中学校への訪問、地元中学校新体操部との合同トレーニング、公開演技会(村山市民体育館で2日間に渡り実施。観客は満員で併せて3600名が来場)の開催などにより、地元市民との交流も実施。



公開演技会の様子



茶道体験



さくらんぼ狩り



日本食の体験



昼食、夕食はバイキング形式で宿泊しているホテルで一般客にも提供



華道体験

相手国への食文化発信②

徳島県 一事前キャンプへの特産品の提供一

- **徳島県**では、平成29年7月にドイツハンドボールブンデスリーガー女子1部所属のBuxtehuder SVの受入を10日間にわたって実施。
- 日本国内のリーグチームとの国際交流試合の開催、子どもたちとの交流、阿波踊り、徳島県の特産品の飲食等を通じて、ホストタウン交流を展開。



相手国への食文化発信③

北海道士別市 —GAP認証食材の事前キャンプへの供給—

- 北海道士別市は、ホストタウンの取組として、平成29年7月に台湾ウエイトリフティング強豪チームである台湾師範大学ウエイトリフティング部の合宿を約1週間、受入。
- 部員4名、監督1名計5名が士別市で合宿を行うとともに、そば打ち体験、日本文化体験(茶道、弓道)を行った。
- 歓迎会では、GAP認証を受けた農業者が生産した士別市産食材としてアスパラガス、ブロッコリーを使った料理が提供され、選手などにふるまわれた。



歓迎会



合宿の模様



茶道、弓道、
そば打ち体験
の模様



GAP認証を取得したアスパラガス、ブロッコリーを使った料理の提供



相手国への食文化発信④

山形県鶴岡市 一地元食材を活用したモルドバ料理

- 山形県鶴岡市**では、平成29年5月にモルドバ共和国大使が小・中学校での特別授業の実施や、同国特産のワインを使って市民交流を進める「モルドバワインを楽しむ会」を実施。
- 平成29年6月には、モルドバ共和国を担当者が訪れ、同国スポーツ関係者と交流。
- さらに、8月には地元庄内の野菜(じゃがいも、玉ねぎ、にんじん等)や肉類(豚肉・鶏肉)の食材を使った「親子モルドバ料理教室」を実施し、同国との市民交流を深めている。モルドバ風餃子のコルツナシュは、見た目は餃子だが、中身がじゃがいもと玉ねぎで、美味しいと好評だった。モルドバ風パイ「プラチンタ」はだだちゃ豆を具に使って作られた。地元シェフのサポートもあり、鶴岡市民がモルドバの食文化を理解する良い機会となった。



市内スーパー
でも市民理解
を進めるため
同国ワイン
フェアを実施



相手国への食文化発信⑤

埼玉県鶴ヶ島市 一ミャンマー産食材を使用した新メニューの提供一

- 埼玉県鶴ヶ島市では、平成29年10月にミャンマーからの訪問団を迎へ、事前キャンプの協定を締結するとともに小学生との交流や、ミャンマー産食材を使用したメニューによる食文化交流会を実施。
- 食文化交流会では市内の飲食事業者（中華、イタリアン、和菓子）が自発的にミャンマー産食材を用いた新メニューを開発し提供。また、鶴ヶ島産の狭山茶を飲み物として提供し、同じお茶文化を持つ国同士の交流も図った。
- 今後これらのメニューの定番化を図るほか、鶴ヶ島市では、ミャンマーの食材を使用した商品や料理を販売する飲食店などを「ホストタウン応援店」として紹介する取組なども進められています。

※事業費は、ミャンマー訪問団の受入経費、通訳等協力者への謝金、職員旅費など 総額約250万円



【提供メニュー】

- ミャンマー産海老と鶴ヶ島産野菜のピザ
- ミャンマー産カシューナッツと鶴ヶ島サフランのシフォンケーキ
- ミャンマー蜂蜜と鶴ヶ島サフランカラメルソースマンゴプリン
- 鶴ヶ島サフランとミャンマー産海老の茶ラーメン
- ミャンマー産海老の天むす
- ミャンマー産カシューナッツ入りあんまんじゅう鶴ヶ島産抹茶がけ
- 鶴ヶ島産狭山茶
- ミャンマーコーヒー



食文化交流会

本件の問い合わせ先
鶴ヶ島市地域活動推進課 049-271-1111 内線275

MOU締結式

小学生との交流

共生社会の実現①

鳥取県 一パラリンピアンと子供たちの交流

■プロジェクトの目的

- ・県が推進する障がい者スポーツの振興に向けた県民の理解促進
- ・ジャマイカとの交流事業を予定するホストタウン計画の推進と東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成

■プロジェクトの概要

- ・リオデジャネイロパラリンピックでメダル4個を獲得した木村敬一選手を招き、県民との交流事業として講演会、水泳交流会を実施。
- ・講演会190名超、水泳交流会30名（小中高生15名、一般15名、うち障がい者14名）と、いずれも定員を上回る来場者数。

※ホストタウン相手国：ジャマイカ（陸上競技）

（講演会場）



（水泳交流会場）



（メダルの紹介）



（用具の紹介）



（講演の様子）



（パラリンピアンの紹介）



（ブラインド水泳体験）



（タッピング体験）



※手話通訳者は県障害者協会より派遣

※運営スタッフは県水泳連盟より8名派遣

資料)いずれも鳥取県

(平成28年度ホストタウン推進調査より)

共生社会の実現②

島根県邑南町 一パラリンピック種目体験会

■プロジェクトの目的

- ・地域住民のスポーツ・健康への関心向上及び誰もが活躍できる共生社会実現への貢献の必要性の理解
- ・招聘競技を選ぶためのアンケートを実施するなど、子どもたちを「未来のヒューマンレガシー」と位置づけ育成。

■プロジェクトの概要

- ・障がい者マラソン・ゴールボール・車いすバスケットボールの3競技のパラリンピアンを招聘。
- ・全6校での学校訪問・幅広い年齢層の地域住民との交流会及びパラリンピック競技体験を実施。

※ホストタウン相手国: フィンランド(ゴールボール)

(学校における交流会の様子)



(地域における交流会の様子)



資料)邑南
町
(ゴールボールに参加する
車いすバスケットボール選手の姿も)



資料)邑南
町

(平成28年度ホストタウン推進調査より)

国別活動状況（ドイツを相手国とする取組み）

- 16の自治体（件数では12）がホストタウンとして登録。在京大使館との交流やクリスマスマーケット、食文化を通じた交流をそれぞれ行っており、今後は自治体間の連携も予定。
- 多くの自治体が日独英語に堪能なドイツ人のCIR（国際交流員）を採用（予定も含む）しており、活動の中心を担っている。

[登録自治体] 山形県鶴岡市、東根市、群馬県沼田市、東京都文京区、東京都青梅市、新潟県上越市、山梨県山梨市、愛知県豊橋市、岡山县真庭市、徳島県・那賀町、福岡県田川市、宮崎県・宮崎市・延岡市・小林市



[青梅市]青梅ドイツウィークでのカヌー選手との交流

[徳島県・那賀町]地元高校生とドイツカヌー選手・柔道選手との交流



[上越市]事前キャンプに関する覚書締結



[田川市]CIRを仲介しながらの面談の様子



[鶴岡市]ドイツの市民スポーツイベントへの参加

国別活動状況（ドイツを相手国とする取組み）

- 平成29年10月31日、在京ドイツ大使館主催のホストタウンミーティングが開催。同日に駐日ドイツ大使主催によるレセプションも開催。
- 説明会には、ドイツ本国からドイツスポーツ連盟の理事が参加し、同連盟の役割やスポーツ少年団の派遣について説明。また、ハインリッヒ・ポポフ選手（リオデジャネイロ・パラリンピック陸上男子走り幅跳び金メダリスト）も来日され、同氏が講師を務める「ランニング・クリニック」
(<http://www.ottobock.co.jp/running-clinic/running-clinic-2017/>) の紹介や、小学校でのイベントなどを紹介。
- ホストタウン・ドイツグループの設立が提案されるなど、ミーティング及びレセプションを通じ、今後の横連携のネットワーク形成の端緒となった。

[参加自治体] 山形県鶴岡市、東根市、群馬県沼田市、東京都文京区、東京都青梅市、新潟県上越市、山梨県山梨市、愛知県豊橋市、岡山県真庭市、徳島県・那賀町、福岡県田川市、宮崎県・宮崎市・延岡市・小林市



大使主催レセプション。左から
フォンヴェアテル大使、鈴木オリパラ担当大臣、ハインリヒ・ポポフ選手



駐日大使主催レセプション。公邸料理人が腕によりをかけた
ドイツ料理・ヨーロッパ料理が並んだ。



ホストタウンミーティングでは、
ポポフ選手が金メダルを取った
飛距離が実際に示された。



ミーティング中の
コーヒーブレイクでは、持ち
寄ったお菓子など
をつまみながら
ホストタウン同士の
交流が活発に行われた。

国別活動状況（アフリカを相手国とする取組み）

- アフリカ54か国中ホストタウンの相手国として登録されているのは6か国に留まるが、アフリカ諸国に強みのあるスポーツ（陸上長距離）や、原産のコーヒーを生かした交流を実施するなど、多様な交流が見込まれる。
- 山形県長井市は、山形・タンザニア友好協会を通じてタンザニアと20年以上にわたり交流を継続。現在は同市出身のJICA職員の協力を得て交流を実施。
- 茨城県笠間市は、エチオピアの陸上選手や子どもたちの招へいとともに、交流のきっかけとなった消防車の提供支援を引き続き予定。

[登録自治体] 山形県長井市：タンザニア 福島県猪苗代町：ガーナ 茨城県笠間市：エチオピア 東京都町田市：南アフリカ
神奈川県・小田原市・大磯町・箱根町：エリトリア 大阪府泉佐野市：ウガンダ



[笠間市]エチオピアフェスティバル開催



[長井市]タンザニア訪問時の和太鼓披露



[猪苗代町]ガーナ高校生とのホームステイ交流



[神奈川県・小田原市・大磯町・箱根町]
オリエンピアンと子どもたちの交流



[泉佐野市]ウガンダ陸上選手と子どもたちの交流



[町田市]大使の市内小学校への訪問

ホストタウンイベントの開催

- 平成29年11月11日、ソラマチひろば（東京都墨田区）において、岩手県、宮城県、福島県の被災3県を含む5県6団体の参加により、「Host Town Lineups」という一般の方々にホストタウンの取組を紹介する初のイベントを開催。
- 来場者へのアンケート（N=45）では、このイベントに参加した約9割が東京大会への関心が高まったと回答。スカイツリーに遊びに来た一般の方々にホストタウンをアピールした。



岩手県、宮城県、福島県がそれぞれの特産物を販売。遠野林檎シードル、気仙沼ふかひれスープ、福島県のりんごつめ放題などが大人気！



徳島県のブースは、ドイツチーム受入時の写真を展示した他、徳島商業高校、城西高校の生徒たちが、徳島特産の阿波藍を使った商品など自分たちの開発した商品を販売。

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局も出展し、全国各地のホストタウン自治体の紹介を実施。

茨城県常陸大宮市、宮城県蔵王町、在日パラオ共和国大使館が合同で出展。テレビ局の取材を受けた。